

【2024年卒 就職活動TOPIC】 入社後の配属希望と確定状況（6月12日時点調査）

入社を決める前までに、配属先の明示を希望する学生は73.6%。

民間企業への就職確定者のうち、入社を決める前までに配属先が確定している学生は27.1%

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区 代表取締役社長：北村 吉弘）のより良い就職・採用の在り方を追究するための研究機関・就職みらい研究所（所長：栗田 貴祥）は、就職みらい研究所学生調査モニターの大学生・大学院生を対象に「就職プロセス調査」を実施いたしました。このたび調査結果がまとまりましたので、一部を抜粋してご報告申し上げます。

配属先を明示してほしい時期は、学生の志向や状況によってさまざま



所長 栗田 貴祥

今回は2024年卒学生の6月12日時点での調査データをもとに、入社後の配属希望と確定状況について報告します。就職先を決める前に、配属先が確約されていた方が良いかを聞くと、「確約されている方が良い」「どちらかというとなら確約されている方が良い」と回答した割合（確約されている方が良い・計）は約8割でした。民間企業への就職が確定している学生に、配属先が確定した（する）時期を聞くと、入社を決める前までに配属先が確定していた学生は、全体では27.1%で、就職先を決める前に配属先が「確約されている方が良い」と回答した学生では40.8%でした。確約希望のあった学生の半数以上が入社を決める前に配属先が確約されていない状況であることが分かります。また、配属先について確約してほしい内容は、「職種」が60.5%で最も高く、「勤務地」が59.6%で次に高い結果となりました。配属先を明示してほしい時期を聞くと、「配属確約での応募」は14.0%、「選考時」は19.3%、「内々定・内定取得時」は18.0%、「内々定・内定取得後～入社を決める前まで」は22.3%、「入社を決めた後～入社前まで」は20.9%で、希望明示時期は学生の志向や状況によってさまざまです。こうした現状を踏まえ、企業の皆さまにおいては、学生が入社を決める前までに、配属確約の応募ルートを設定し、選考中に配属先について可能な範囲で明示するなど、多様化する個人の志向や価値観に合わせて、配属先に対する不安を取り除くための柔軟な対応をとっていくことが、採用戦略実現に向けた一手となり得るかもしれません。

配属先について明示してほしい時期

大学生_全体（就職志望者/単一回答）※大学院生除く

	（％）						
	配属確約での応募	選考時	内々定・内定取得時	内々定・内定取得後～入社を決める前まで	入社を決めた後～入社前まで	入社後	入社を決める前まで・計
全体	14.0	19.3	18.0	22.3	20.9	5.6	73.6

本件に関する
お問い合わせ先

<https://www.recruit.co.jp/support/form/>

「就職先を決める前に配属先が確約されている方が良い」と思う学生は約8割

・就職先を決める前に、配属先が確約されていた方が良いかを聞くと、「確約されている方が良い」「どちらかというと確約されている方が良い」と回答した割合（確約されている方が良い・計）は80.7%だった。

就職先を決める前に配属先が確約されていた方が良いか

大学生_全体（就職志望者/単一回答）※大学院生除く

(%)

確約されている方が 良い	どちらかというと確約 されている方が良い	どちらかというと確約 されていなくても良い	確約されていなくて も良い	確約されて いる方が 良い・計	確約されて いなくても 良い・計
35.9	44.7	11.7	7.7	80.7	19.3

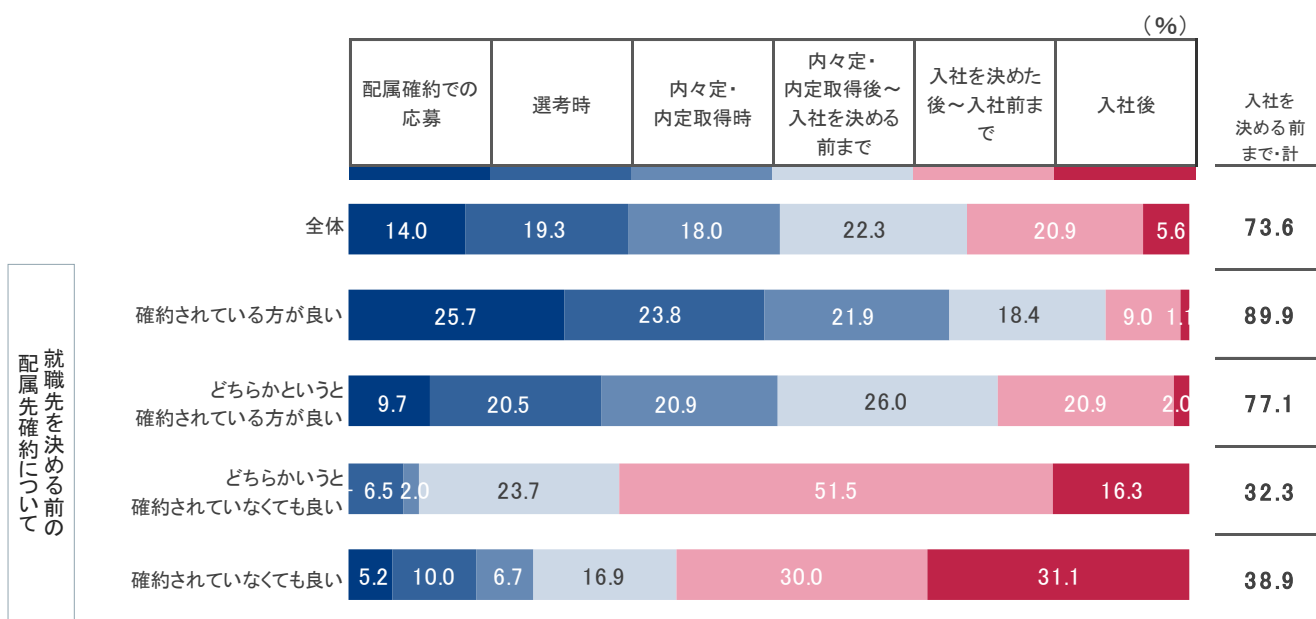
約4分の3の学生が入社を決める前までに配属先を明示してほしいと考えている

・配属先について明示してほしい時期を聞くと、「内々定・内定取得後～入社を決める前まで」が22.3%で最も高く、「入社を決めた後～入社前まで」が20.9%で2番目に高かった。「配属確約での応募」「選考時」「内々定・内定取得時」「内々定・内定取得後～入社を決める前まで」と回答した割合（入社を決める前まで・計）は73.6%だった。

・就職先を決める前に、配属先が「確約されている方が良い」と回答した学生を見ると「配属確約での応募」が25.7%で最も高く、「どちらかというと確約されている方が良い」と回答した学生の9.7%と比べても、早い時期の配属先明示を希望している様子がうかがえる。

配属先について明示してほしい時期

大学生_全体（就職志望者/単一回答）※大学院生除く

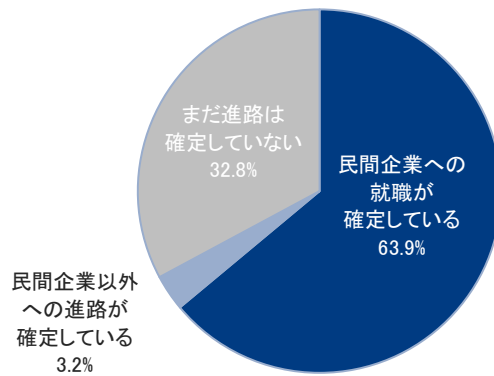


民間企業への就職確定者のうち約4分の1が入社決定前に配属先が確定していた

- ・すでに民間企業への就職が確定している学生のうち、入社を決める前までに配属先が確定していた学生は27.1%であった。
- ・配属先が確定した（する）時期は、「まだ配属先は確定していないが、入社後に確定する予定」が27.7%で最も高く、「配属先がいつ決まるかわからない」が24.7%で2番目に高かった。
- ・就職先を決める前に、配属先が「確約されている方が良い」と回答した学生のうち、入社を決める前に配属先が確定していた学生は40.8%であった。

6月12日時点の進路確定状況

大学生_全体（就職志望者/単一回答）※大学院生除く



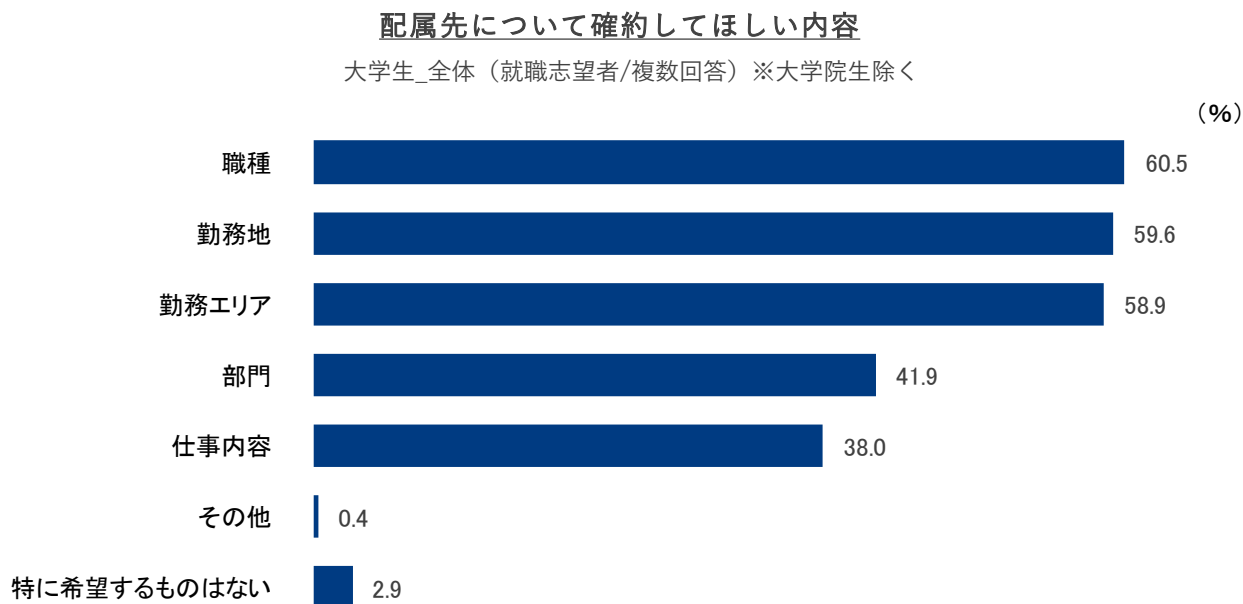
配属先が確定した（する）時期

大学生_全体（就職志望者のうち民間企業への就職確定者/単一回答）※大学院生除く

	（%）								入社を決める前に確定・計
	応募時に、配属先が確定していた	選考時に、配属先が確定していた	内々定・内定取得時に、配属先が確定していた	内々定・内定取得後～入社を決める前までに配属先が確定していた	入社を決めた後に配属先が確定した	まだ配属先は確定していないが、入社前までに確定する予定	まだ配属先は確定していないが、入社後に確定する予定	配属先がいつ決まるかわからない	
全体	12.9	6.6	4.6	0.9	19.7	27.7	24.7	27.1	
就職先を決める前の配属先確約についての	確約されている方が良い	21.8	11.3	4.5	1.3	17.1	20.9	19.9	40.8
	どちらかというと確約されている方が良い	9.9	5.0	4.2	0.2	21.5	32.8	22.5	22.9
	どちらかというと確約されていなくても良い	1.1	—	25.4	—	28.8	—	39.3	6.6
	確約されていなくても良い	2.3	1.4	9.7	2.9	4.6	10.5	28.1	40.6

配属先について確約してほしい内容は「職種」「勤務地」「勤務エリア」の割合が高い

・配属先について、確約してほしい内容を聞いたところ、「職種」「勤務地」「勤務エリア」と回答した割合が約6割と高かった。



※選択肢は下記を補足して聴取を行っている

職種：営業職や研究開発職など仕事の種類

勤務地：本社など働く場所の住所

勤務エリア：関東など働く場所の地域

部門：研究本部やシステム部門、医療機器事業部、ITサービス事業部など、部や部門

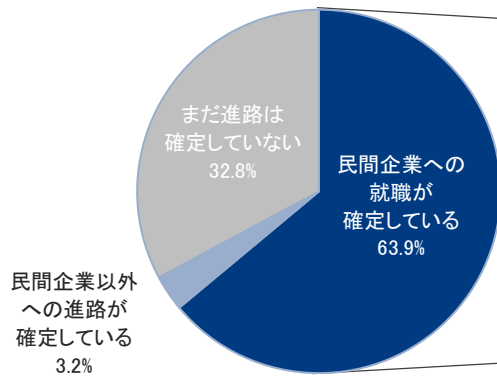
仕事内容：誰に何をどのように売るかなど具体的な仕事内容

配属先について確定している内容は「職種」の割合が最も高い

・6月12日時点で就職確定先の配属先が確定していると答えた学生に、配属先について確定している内容を聞いたところ、「職種」が69.3%で最も高く、「勤務地」が54.1%で2番目に高かった。

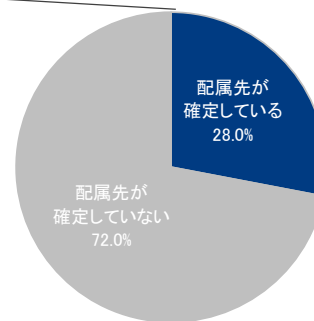
6月12日時点の進路確定状況

大学生_全体（就職志望者/単一回答）※大学院生除く



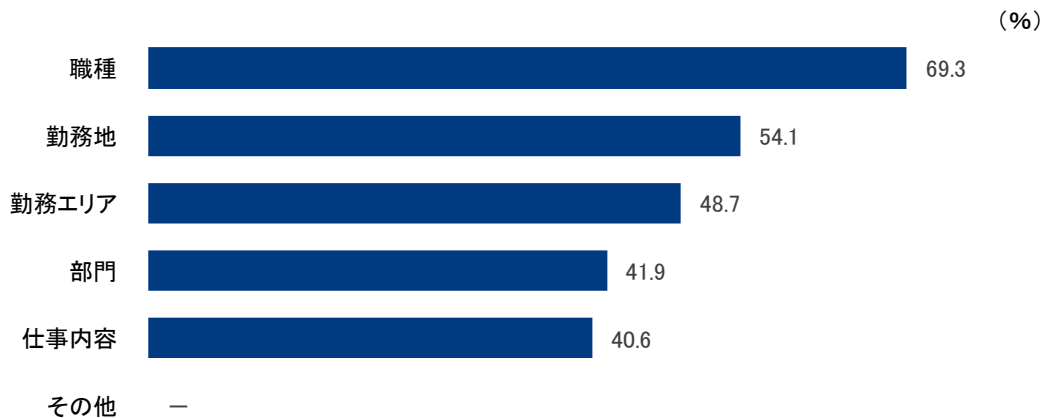
6月12日時点の配属先確定状況

大学生_全体（就職志望者・民間企業への就職確定者/単一回答）※大学院生除く



6月12日時点で配属先について確定している内容

大学生_全体（就職志望者・民間企業への就職確定者のうち配属先確定者/複数回答）※大学院生除く



※選択肢は下記例示して聴取を行っている

職種：営業職や研究開発職など仕事の種類

勤務地：本社など働く場所の住所

勤務エリア：関東など働く場所の地域

部門：研究本部やシステム部門、医療機器事業部、ITサービス事業部など、部や部門

仕事内容：誰に何をどのように売るかなど具体的な仕事内容

配属先について確約してほしい内容

大学生_全体 (就職志望者/複数回答) ※大学院生除く

(%)

		部門	職種	仕事内容	勤務エリア	勤務地	その他
全体		41.9	60.5	38.0	58.9	59.6	0.4
文理別	文系	37.6	60.1	37.5	59.8	58.3	0.6
	理系	52.2	61.5	39.4	57.0	62.9	-
男女別	男性	45.7	57.0	36.0	60.7	53.9	0.6
	女性	37.6	64.4	40.3	56.9	66.0	0.2
地域別	関東	46.7	59.9	40.7	64.1	58.7	0.9
	中部	44.7	66.9	33.6	51.2	68.5	-
	近畿	39.9	60.9	34.0	62.0	54.9	0.2
	その他地域	31.8	56.2	40.4	51.2	59.3	-

※「特に希望するものはない」は除く

※選択肢は下記を補足して聴取を行っている

部門：研究本部やシステム部門、医療機器事業部、ITサービス事業部など、部や部門

職種：営業職や研究開発職など仕事の種類

仕事内容：誰に何をどのように売るかなど具体的な仕事内容

勤務エリア：関東など働く場所の地域

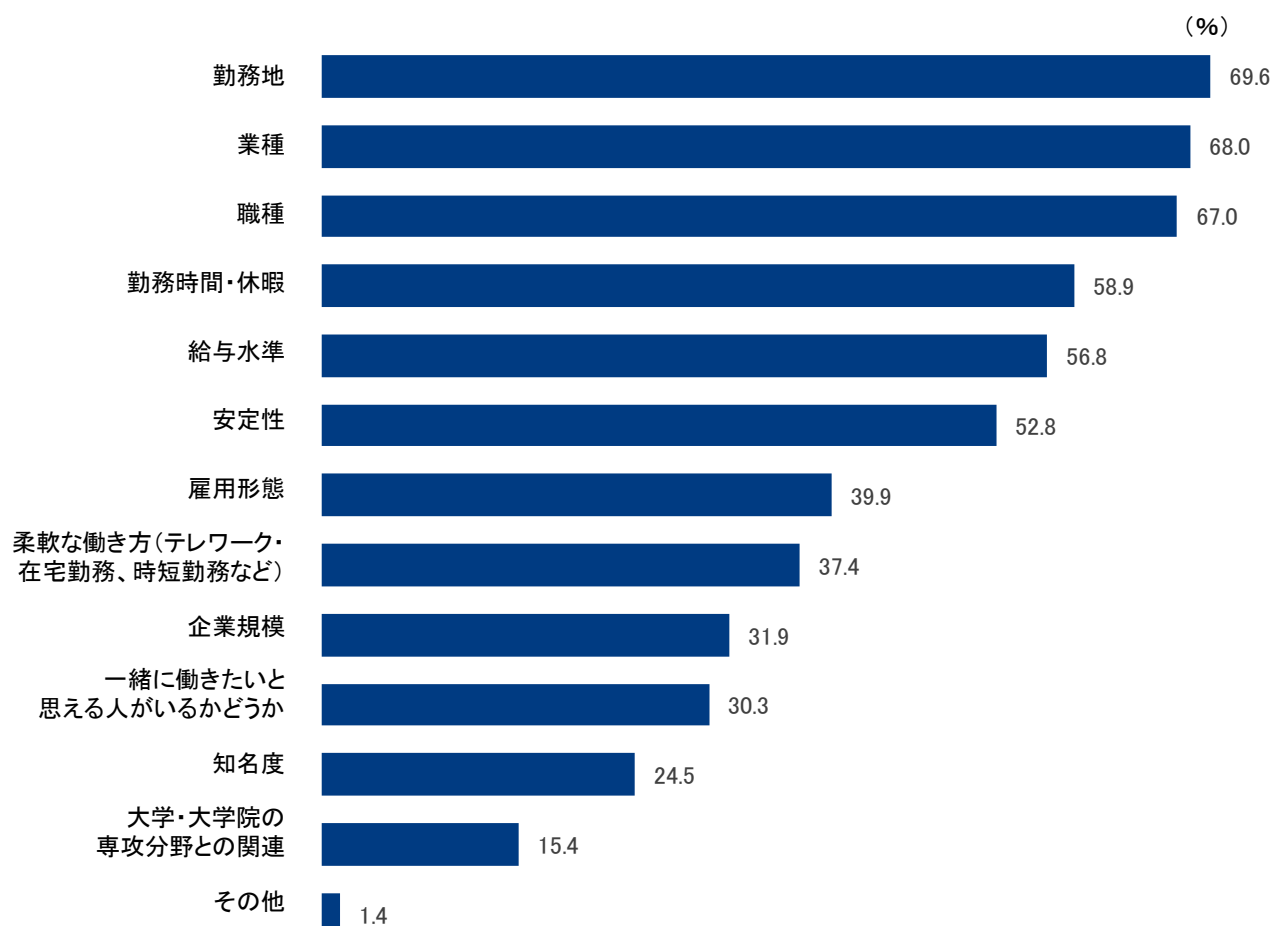
勤務地：本社など働く場所の住所

志望先企業を選ぶときに重視した条件は、「勤務地」「業種」「職種」の順で高い

・志望先企業を選ぶときに重視した条件を聞いたところ、「勤務地」の割合が69.6%で最も高く、次いで「業種」が68.0%、「職種」が67.0%であった。

志望先企業を選ぶときに重視した条件

大学生_全体 (就職志望者・就職活動経験者/複数回答) ※大学院生除く



調査概要

- 調査目的 | 大学生・大学院生における就職活動の実態を把握する
調査方法 | インターネット調査
集計方法 | 大学生については、性別、専攻、所属大学の設置主体を基に、実際の母集団の構成比に近づけるよう、文部科学省「学校基本調査」の数値を参照し、ウェイトバック集計を行っている

2024年卒：2023年6月12日時点

- 調査対象 | 2024年卒業予定の大学生および大学院生に対して、『リクナビ2024』（※）にて調査モニターを募集し、モニターに登録した学生4,567人（内訳：大学生3,574人/大学院生993人）
調査期間 | 2023年6月12日～6月19日
集計対象 | 大学生 1,165人/大学院生 437人
※リクナビ：株式会社リクルートが運営している、就職活動を支援するサイト
<https://job.rikunabi.com/2024/>

モニターの抽出条件

「卒業後の志望進路（志望する進路の全て）」の回答状況を基に、次の条件で対象を抽出
本調査対象 = 「就職意向者（就職志望者 + 志望進路未決定者）」（※モニター募集時）

本調査対象については、以下を除いた

- 就職志望者のうち「②公務員」「③教員」「④医師・歯科医師・看護師」のみ選択した者
- 就職以外「⑥起業」「⑦進学(国内)」「⑧進学(留学)」「⑨その他」のみ選択した者

調査結果を見る際の注意点

- 「内定率」は内定・内々定を含む。政府の要請における正式な内定日は10月1日以降である
- %を表示する際に小数点第2位で四捨五入しているため、%の合計が100%と一致しない場合がある
- 「前回差」「前年同月差」の単位は、「ポイント」
- 本資料での「前年」とは、「2023年卒」を示す

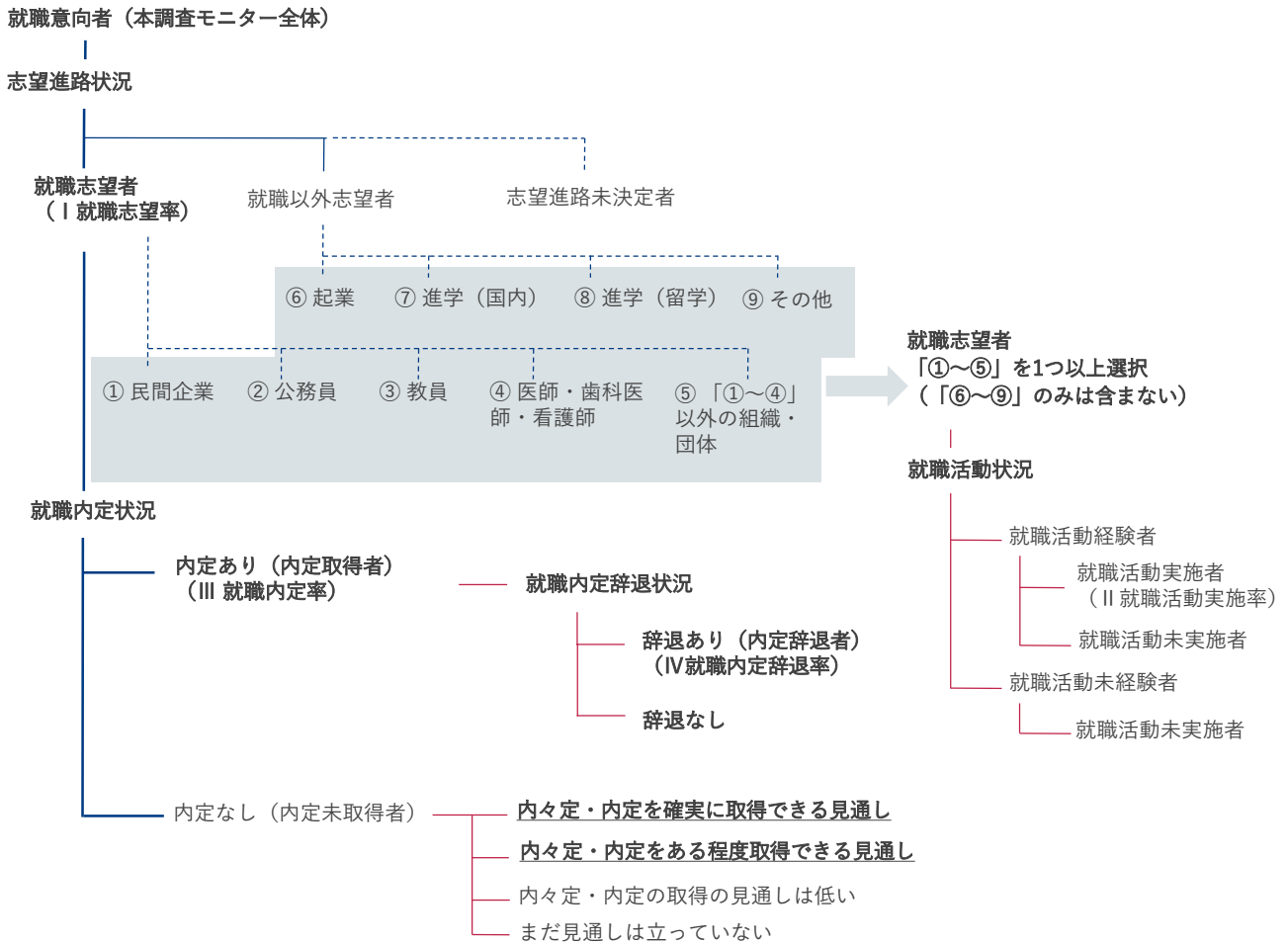
リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人ひとりのライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、マッチング&ソリューション、人材派遣の3事業を軸に、60を超える国・地域で事業を展開しています。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここにはない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。

リクルートグループ：<https://recruit-holdings.com/ja/> リクルート：<https://www.recruit.co.jp/>

就職志望者から見た内定状況の構図



<各率の算出方法>

I 就職志望率	=	就職志望人数 ÷ 就職意向人数
II 就職活動実施率	=	就職活動実施人数 ÷ 就職志望人数
III 就職内定率	=	就職内定取得人数 ÷ 就職志望人数
IV 就職内定辞退率	=	就職内定辞退人数 ÷ 就職内定取得人数

<用語の定義>

- 就職意向者 = 当初 (本調査モニター募集時) の志望進路が「就職」および「未決定」者
- 就職志望者 = 当月、就職を志望している者
- 就職活動実施者 = 当月、就職活動を実施している者 (※)
- 就職活動経験者 = 当月までに就職活動の経験がある者
- 就職内定取得者 = 当月までに内定 (内々定) の取得経験がある者
- 就職内定未取得者 = 当月までに内定 (内々定) の取得経験がない者
- 進路確定者 = 当月、進路が確定している者
進路確定率 = 進路確定人数 ÷ 就職意向人数
- 就職内定辞退者 = 当月までに内定 (内々定) の辞退経験がある者

≪地域区分の内訳≫

- 関東 = 東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県
- 中部 = 静岡県、愛知県、岐阜県、山梨県、長野県、新潟県、富山県、石川県、福井県
- 近畿 = 京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、三重県、滋賀県
- その他地域 = 「関東」「中部」「近畿」以外の地域

※就職活動実施状況について、「している」「していない」の選択肢のうち、「している」と回答した者